

誰でも白居易が好きになる本

市川 桃子

読者の対象を明確にビギナーズとさだめ、各項に「人生で大切なものは？」というような親しみやすいタイトルをつけたり、詩の日本語訳には、たとえば新樂府「売炭翁」詩に「炭を売りお金を手に入れるのは何のため?」「寒くなればいいなと願っている」とあるように、語りかけるような口語の口調をまじえたり、解説を平易な言葉で短くしたりしているのは、本書の特徴というよりは、シリーズの特徴としての編集方針であると見受けられる。本書が好感の持てる良い本に仕上がっている理由の一つに、このような編集方針がある。

しかし、本書の成功の鍵は、何よりも白居易に対する著者の態度にあると思う。随所に、白居易を深く理解し、そのうえで、白居易の作品が好きだ、白居易

の人となりが好きだ、という著者の素直な思いがにじみ出て、本書を暖かい良い本にしていると思う。こうした気持ちが無かったならば、いかに編集方針に助けられているとはいっても、こういう本は書けなかっただろう。

さて、本書には、上記のほかに、ビギナーズのためにやさしく、興味を引くように楽しく、理解を助けるために適切な知識を、と、様々な工夫が凝らされている。それは、著者が意識的に書き込んでいるものもあるし、無意識らしいものもある。ここでは、それらの中からいくつかを挙げてみることにする。

まずは、白居易の人生をすっぱりと「兼済(仕事)」と「独善(プライベート)」の二つの言葉で説明することにしたこと。概念というものは、理解していても

下定雅弘著

白樂天

(ビギナーズ・クラシックス

中国の古典)



文庫判 256頁 [820円]
角川グループパブリッシング

言葉がないと拡散して捕らえにくいものである。このように名称を与えられると、概念の姿が明確に浮かび上がってきて、把握が容易になる。いささか乱暴な区分のようにも見られるが、この手法によって、ビギナーズが白居易の生き方を考えるときに、格段にイメージを捉えやすくなったのである。「兼済」をまっすぐに目指した前半生と、「独善」に喜びを見いだそうとした後半生、そして「兼済」と「独善」の間で揺れ続ける白居易の心が、本書の縦糸として描かれていくこととなる。

作品の選び方にも特徴がある。中学や高校のテキストに出てくる漢詩には、な

ぜか、年を取った悲しみをうたったものが多い。十代とのときに白髪の悲しみを理解できるものだろうか、なによりも、彼らがこういう詩を読んで面白いと感じるものだろうか、かねがね疑問に思っていた。漢詩の中には、年を取った悲しみのほかに、別離の悲哀、望郷の念、挫折や失意など、悲しいことをうたった作品が多いのは事実である。しかし、若者にはもっと前向きな作品が似合うのではないか。

本書には悲観的な作品が少ない。最晩年の作品でも、白居易が己の人生を振り返って、貧しいけれどものんびりとした良い人生だった、「よくぞここまで来た、よくぞここまで来た、白楽天」という作品が採用されていて、読者をほっとさせる。人生の目標をどこに置くかは人によつて異なるが、このように、年を取ってから振り返ってみて、自分をほめることができる人生を送ることができればいいなあ、と読者が思ったとしたら、これはよい選択である。

そして後半の第二部には、愛情深い楽

しい作品ばかりが選ばれている。白居易が大切にしていた恋人、家族や友人への便り、可愛がついていた鳥や花、使い慣れた火鉢や好物の筍、ある日感じた春の風、雨上がりの清涼、たき火の暖かさ。こうした主題の作品を読めば、読むものの心持ちも暖かくなるし、さらには、人生の一つの価値観、つまり、富貴名誉のほかにも豊かな人生があるのだな、という理解が生まれるかもしれない。

白居易が当時の詩人の中でも穏やかな性格で、安全な人生を選んだ人物であったことはしばしば言及されている。だから白居易にはこのように暖かい作品もたくさんあるわけであるが、それでも、別の種類の作品を選択する道もあったと思う。本書の作品の選択は、著者の一つの見識と言えよう。

作品の解説に、韻やリズムについての説明がたびたび入るが、これは著者の意図したものであろうか。ほかの多くの訳注には感じられない、原作を読んだときのリズムや音の響きを感じとることができ

■「中国：人形劇の世界」展

影絵芝居（皮影戯）、糸操り人形劇（提線木偶戯）、手指人形劇（布袋戯）、棒使い人形劇（杖頭木偶戯）など、近代化が進むとともに消えゆく中国民間の人形劇の一端を紹介。

▼5月23日（月）～6月24日（金）▼麗澤大学生涯教育プラザ展示ルーム（千葉県柏市光ヶ丘二ー）▼入場無料▼お問合せ：E-mail:kanamaru@reitaku-u.ac.jp ▼http://www.fl.reitaku-u.ac.jp/~kanamaru/preview/index.html

*

「無料公開講座」麗澤オープンカレッジ）▼テーマ「中国の少数民族・ウイグル族の文化」▼講師・金丸良子（麗澤大学外国語学部教授）▼6月18日（土）12時▼興味のある方ならどなたでも（定員80名）▼お申込み・お問合せ・ROCK（麗澤オープンカレッジ）事務室（☎0477173・3664 / FAX 047173・3767）（*火～土 9～17時）▼http://rock.reitaku-u.ac.jp/class/class_details.php?course_id=1689

中国年鑑 2011

◎5 月末刊行予定◎

中国研究所 編・発行

毎日新聞社 発売

1955 年創刊。現代中国に関するあらゆる分野の最新情報、基本情報を提供。

B5 判 約 500 頁

価格: 18,900 円(税込)

◆特集

波立つ海洋・動き出す内陸

建国から 60 年が過ぎた中国が大国として求められる、内外で抱えるさまざまな課題を取り上げた論考を掲載。

◆動向

政治、外交、経済、対外経済、文化、社会

◆要覧・統計

国土と自然、人口、国のしくみ、軍事、少数民族、華僑・華人、香港、マカオ、台湾、国民経済・国民生活、財政、金融、証券・保険、農業、工業、資源・エネルギー、交通運輸、対外経済、知的財産権、労働、暮らし、社会保障・医療制度、環境問題、NGO・NPO、教育、文化、宗教

◆資料

統計公報、重要文献、主要人事、2010 年日誌ほか

※お問い合わせは中国研究所事務局まで。

一般
中国研究所

〒112-0012

東京都文京区大塚 6-22-18

TEL: 03-3947-8029

FAX: 03-3947-8039

e-mail: c-chuken@tcn-catv.ne.jp

URL: http://www.soc.nii.ac.jp/ica/

たとえば、九三頁の七言古詩「閑吟」には、

「前半四句の押韻は入声（ゴツゴツとつまる音）の仄韻にして、人生が思うようにいかないことを述べ、これに対して後半は平韻でまとめ、なめらかで快適な韻の調べに乗せて、洛陽での暮らしへの満ち足りた思いを表現しています」

という説明がある。そこで原詩の横に添えられている韻字を見ると、「貧窮なれば汲汲として」と歌い出す前半の韻字は力のこもった音の「食、力、得」であり、「我れ今幸いに」と始まる後半の韻字はのびやかな響きの「閑、山、閑」であることがわかり、読者が実際に発音してみれば、作品の内容によって脚韻の

響きが異なることが実感できる。

韻だけではなく、リズムについても言及がある。たとえば大和九年十一月二十一日、千人が殺されることとなった甘露の変が起こった日の作品（九八頁）には、「過酷な現実と直面して、強い驚きと恐れを感じつつ、この生き方しかないのだと自分にいいかせるその思いが、七言のスピーディーなリズムにせかされるように詠われています」

とあり、この解説を読んだから作品を見直して、「禍福は茫々期す可からず」と詠いはじめると、なるほど、焦るような切迫したリズムが感じられるのである。作品の解説以外にも目を向けよう。まず目に付くのは、コラムや写真である。

コラムは、二つの種類がある。一つは「科挙」「近体詩と古体詩」といった、基礎知識に関するもの。ことに「唐代の官制」は中央の官制と地方の官制に分けて、よくまとまって書かれており、文学史の講義などにも使えそうである。もうひとつは「香山寺と白居易の墓」「おばあさんにもわかる」のような、白居易理解に役立つ知識である。「長安と洛陽」には、当時の洛陽の特殊な都市事情が書かれている。この知識によって、晩年洛陽に住んだ白居易の複雑な気持ちを理解できるように配慮されている。

コラム以外に、写真や図が適所にたっぷり入っていることも、この本の特徴といえる。「嵩山表裏千重の雪」という

句には、雪をいただいてゴツゴツと岩壁のように見える嵩山(そうざん)の写真(一七九頁)が、「春題湖上」詩には、たつぷりと水をたたえた西湖の写真(七九頁)がある。

これらの写真を見ることによって、作品の情緒に対する理解が格段に進む。「八月十五夜、禁中にて独り直し、月に對して元九を憶う」詩には大明宮の地図を挙げ(一三五頁)、白居易が昼間仕事をしていた翰林院はここ、いま宿直をして月を眺めている浴室殿はここ、と、地図の上で白居易の生活を想像することができ

る。霓裳羽衣(げいしやうい)の曲の楽譜(二二五頁)が収録されているのも驚きである。霓裳羽衣の曲は唐詩にしばしば描かれていて有名な曲名であるが、敦煌の資料や日本の雅楽に伝えられている楽譜を元に復元されたと聞く。その最近の成果をさっそく取り入れて、実際に演奏できるように配慮した。音楽の好きな若者の興味を引くことであろう。

コラムだけではない。面白い知識は方々に散りばめられている。たとえば餅茶の飲み方。お茶の粉末をお湯に入れて

かき混ぜる句があるが、著者はそこから餅茶のかわった製法について述べる。お茶の葉を摘んだらすぐに蒸して搗いて固めてあぶって串に刺して保存するのだという。串刺しの団子みたいな茶を思い浮かべることができる。

著者独特の個性や、独断的とも言える書き方は、反発を呼ぶかもしれない。しかし、この本は、漢詩に初めて接する読者のためには、漢字が羅列した漢詩に対する抵抗を減じ、読者が白居易の人となりに直ちに迫ることができる本であり、また、漢詩に親しんでいる読者に対しては、著者の白居易に対する理解に触れる好著である。こうした前向きな楽しい本がたくさん書かれるようになれば、漢詩を愛する者の数が増え、ひいては人々の心が豊かになることだろう。

(いちかわ・もこ 明海大学)



『東方』をご購読のお客様へ

東日本大震災の影響により、郵便局で指定された配達困難地域宛の『東方』四月号の発送を弊社で保留しておりますが、状況を見て順次発送を再開しております。当該地域のお客様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、未着やご不明の点がございましたら、弊社業務センターまでお問い合わせください。

東方書店業務センター

電話 〇三―三九三七―〇三〇〇
FAX 〇三―三九三七―〇九五五
メール tokyo@toho-shoten.co.jp

月刊『東方』の定期購読をお薦めします

- A5判・本文六四頁／毎月五日発行
- 年間購読料一、〇〇〇円(税・送料込み)
- お申込は郵便振替(〇〇―一四―〇四―一〇〇一 株式会社東方書店)まで。ご住所・お名前・何月号からご希望かを明記。
- 雑誌販売の専門サイト Fujisan.co.jpにて、『東方デジタル版』をご購読いただけます。
<http://www.fujisan.co.jp/magazine/>
1281690377